

<参考資料（平年並の範囲）>

(1) 1971～2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)		降水量平年比(%)
北日本	-0.4～+0.4	日本海側	94～106
		太平洋側	83～108
東日本	-0.4～+0.4	日本海側	93～103
		太平洋側	84～98
西日本	-0.4～+0.4	日本海側	87～117
		太平洋側	84～112
沖縄・奄美	-0.2～+0.2		83～107

(2) この予報期間の地域平均気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	10月	11月	12月
北日本	-0.5～+0.4	-0.4～+0.6	-0.2～+0.4
東日本	-0.5～+0.3	-0.4～+0.6	-0.5～+0.5
西日本	-0.4～+0.4	-0.4～+0.7	-0.1～+0.6
沖縄・奄美	-0.4～+0.2	-0.5～+0.5	-0.3～+0.3

(3) この予報期間の地域平均降水量平年比の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	10月	11月	12月
北日本日本海側	99～111	94～108	96～107
北日本太平洋側	78～110	69～112	80～100
東日本日本海側	91～109	84～112	82～109
東日本太平洋側	73～109	62～113	75～120
西日本日本海側	74～126	85～111	82～119
西日本太平洋側	77～104	72～116	74～132
沖縄・奄美	66～108	78～119	69～113

<参考資料（利用上の注意）>

(1) 気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間に於ける各階級の出現率が等分（それぞれ33%）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

(2) 予報する確率の数值は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30%、40%）の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1よりも多い（少ない）ことを意味します。

### 季節予報

[全般予報の解説資料\(PDF形式:約300KB\)](#)

### 平均気温

### 10月～12月

「高い」または「低い」確率が40%以上の地域

地域名の下の数値は、左から、低い: 平年並: 高いの各確率(%)

